

令和7年3月31日

関係の皆様

砧の学び舎 世田谷区立明正小学校
校長 栗林 大輔

令和6年度の改善方策について実行した改善結果及び令和7年度に向けた改善方策

日頃より本校の教育活動に、ご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

令和6年度の改善方策について実行した改善結果及び令和7年度に向けた改善方策について、下記のとおりご報告します。

記

1 令和6年度の改善方策について実行した改善結果

【明正小学校関係者評価結果】及び＜改善結果・改善方策＞は以下のとおりです。

【明正小学校関係者評価結果】

◎総評

令和6年度、児童向け学校評価アンケートの多くの項目でプラス評価（「とても思う」と「思う」の合計）が前年度より上昇している。全般的に児童と先生との関係が良好に保たれ、学校での行事や学習で児童がより積極的に取り組めた一年であったと評価する。とりわけ学校行事に関しては、「楽しい」、「達成感がある」、「先生は、児童の意欲を大切にしている」といった設問に対しては、いずれも約90%の児童がプラス評価となっている。また「先生に注意されたことは理解できる」のプラス評価は90.4%、「先生たちは、ていねいに指導してくれる」のプラス評価は92.0%と、いずれも高い数値となっている。これは、管理職と教職員がチーム明正として協力し、意欲的に教育活動に取り組んだ成果と評価する。スクールサポートスタッフ、学校生活サポーター、学校包括支援員、教科支援員などの支援スタッフの活用については、自己評価報告書内で「サポートが有効であった」との意見が多く、より効果的な活用を推進していただきたい。

教科担任制の導入に向けて、今年度は体育、理科、社会で試験的な実施（交換授業）が行われた。自己評価報告書および先生方へのヒアリングによれば、教科担任制に対して先生方は概ね前向きにとらえていると思われる。教科担任制の利点としては「複数の教員の目で児童を捉えられる」、「教材研究の時間が削減可能」、「専門性が高められる」などの点が挙げられている。一方、課題としては「時間割の調整が難しい」、「教科によって負担のばらつきがある」、「若手教員にとっては、他の教科の指導力がつかない」などの指摘があった。子どもたちの反応は概ね良好で、いろいろな先生の授業を楽しんで受けている様子であったとのことである。今後も、こういった利点や課題を踏まえつつ児童の学習意欲の向上に資する取り組みを進めていただきたい。

先生方へのヒアリングによれば、すぐるによる保護者への情報伝達はほぼ定着してきた状況であるが、一部の保護者については連絡帳等の紙媒体での情報伝達の方が確実との意見があった。ペーパーレス化の推進は重要であるが、情報伝達を確実に行うために、各家庭の状況に応じたきめ細かい対応が今後も必要と考えられる。

＜改善結果・改善方策＞

児童向け学校関係者評価アンケートの結果等に基づき、学習や特別活動、学校行事等への児童の前向きな態度と教職員の取組について価値付けていただきました。引き続き「チーム明正」として教職員が連携し、教育活動の充実に努めてまいります。小さなことでも発信し、共有できる教職員の雰囲気は、活気を生み、児童にも伝わります。異学年の交流が盛んであることも教職員の関係が良好であることの表れであると考えられます。児童一人一人の心配事や状況を把握し、未然防止、早期対応を行うためには、担任のみならず、

同学年や専科、養護教員が気付き、共有することが欠かせません。特別支援学級・特別支援教室教員や包括支援員、スクールサポートスタッフ、学校生活サポーター等も含め、何でも話せる教職員の関係を管理職が中心となり、築いてまいります。

教科担任制について、東京都・世田谷区においても推進しており、担当する教科が絞られることで、教材研究が深まるとともに、同じ授業を複数回実施できるので、授業の質を高めることができます。また、複数の教員が各学級に関わるため、児童への関わりや支援が充実します。さらに、授業準備にかかる時間が短縮されるとともに、他の教員と指導等について話す機会が増えることで不安や悩みを一人で抱え込まずチームで対応しやすくなるなど、教員一人一人の負担が軽減されます。一方で、時間割編成が複雑になったり、教員の指導力の差や教えない教科の指導力が身に付かなかつたりといったといった課題があります。今後も効果を生かし、課題を共有・改善しながら取り組んでまいります。

「すぐーる」による配信が定着し、配布物の印刷・配布といった負担の軽減にもつながっています。紙媒体による伝達のよさもありますが、一方で、さらにペーパーレス化を進めるべきといった保護者の方のご意見もあります。保護者の方のご意見も踏まえつつ対応してまいります。

【明正小学校関係者評価結果】

◎回収率について

保護者向け調査シート回収率 65%（前年度 69%）、児童向け調査シート回収率 97%（前年度 96%）であった。2 年度前から保護者アンケートは Web での回答に変更となり、保護者向けアンケートが紙媒体で実施されていた頃と比較して回収率は低下している。紙媒体で実施していた頃の回収率は毎年ほぼ 80%以上であり（過去最高は 89.6%）、子どもを通じた手渡しによる保護者アンケートの方が回収率は高くなるのは当然としても、今後も保護者アンケートの回収率向上に向けた働きかけを継続していただきたい。

<改善結果・改善方策>

昨年度に続き、保護者向け調査シートの回収率は、70%を下回っています。地域とともに子どもを育てる学校として、教育活動を改善・充実するために、保護者の方々のご意見は大切です。近隣校の状況や取組を生かすとともに、教育委員会の方針に基づき回収率の上昇に努めてまいります。

【明正小学校関係者評価結果】

◎重点目標についての評価結果

①「明るい子ども」として、「自分の個性を理解し、自己実現を図る子ども」を重視する。「せたがや探究的な学び」を通して、学習を自分事として捉え、課題を把握し、解決の見通しを持って取り組む力を身に付けさせる。

今年度の学習面に関するアンケートの児童向け設問において、ほとんどの項目でプラスの評価割合が上がっている。とくに設問「わたしはすすんで自分の考えを書いたり発表したりしている」でのプラス評価は 63.2%（前年度 51.7%）と 11.5 ポイント上昇している。「わたしはすすんで友だちの考えを聞いたり、話しあったりしている」では 86.4%（前年度 78.5%）と 7.9 ポイント、「わたしははじめをつけて真剣に授業を受けている」では 85.6%（前年度 79.3%）と 6.3 ポイントそれぞれプラス評価が上昇している。これは、先生方の日々の指導により、子どもたちに「自分の考え」を伝える方法が身に付きつつあると考えられる。そして、積極的に課題に取り組めるようになってきたものと評価する。

一人 1 台のタブレット活用において、「先生は映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の設問ではプラス評価が 93.2%（前年度 85.1%）と 8.1 ポイント上昇している。また「私は家庭で宿題や eラーニングでの学習をしている」の設問ではプラス評価が 75.2%（前年度 71.1%）と 4.1 ポイント上昇している。これらのことから、タブレットが学習用具として定着してきており、使い方のルール整備なども含め、有効な活用が推進されているものと評価する。

＜改善結果・改善方策＞

昨年度から、校内研究で特別活動を取り上げ、「学級会」の取組を中心に進めてきました。「互いの考えを認め合い、よりよい学級・学校をつくる児童の育成」をテーマに、一人一人の児童の思いを大切にし、話し合いを通して折り合いをつけ、目標を達成しようとする意欲を高めることを目指しました。「学級会」を開く前に、話し合いを進める児童が意見を集めたり、話し合いの見通しをもったりする準備や学級会・活動後の振り返りが児童の自己肯定感や所属感を高め、よりよい学校生活を目指そうとする意欲につながることを共通理解することができました。教科等においても、児童の発言が増え、ハンドサインで自分の考えを表出する機会も増えていと感じます。また、「課題を見付ける→解決の見通しをもつ→話し合う→活動する→振り返る」というサイクルが教科等にも生かされることが分かりました。このサイクルを定着させ、教員は児童が自ら思いや願いをもったり、進んで調べ、考えたりできるよう児童をファシリテートする立場に立てるよう研鑽を重ねてまいります。そのために令和7年度は「探究的な学び」を充実することを校内研究に取り上げ、授業改善を図る予定です。「考えを書いたり発表したりすることが『楽しい』」と児童が感じられるよう取り組んでまいります。ICTの活用について、一人1台のタブレット端末の活用が定着し、教材の提示や考えの共有が効率的かつ効果的に進められるようになってきました。また、児童が学びの過程をポートフォリオとして記録することで、教員が見取り、価値付けることが容易になり、児童が自分の変容を実感できる手だてとして有効であることが分かってきました。例えば、体育では、毎時間の自分の動きを画像や動画で記録し、技能の高まりを実感できたり、社会科や総合的な学習の時間で調べたことを継続的に記録し、総合して考えたりできました。効果的な実践を共有し、活用を進めてまいります。一方でノートやワークシート等、ICTに依らない手だても有効であることから、発達段階や一人一人に応じた活用を進めてまいります。なお、タブレット端末の家庭での使い方や、区内の小学校では、トラブルも起きていることから、学校のタブレット端末は、学習以外では使わないなどの「明正小 iPad のきまり」に基づき、トラブルの未然防止や情報モラルの育成に関わる取組を進めます。

【明正小学校関係者評価結果】

◎重点目標についての評価結果

② 「正しい子ども」として、「学校生活・社会生活を創る子ども」を重視する。人権意識や規範意識の醸成に基づき、豊かな人間関係を築く力を身に付けさせる。

児童向け設問「わたしは自分からすすんであいさつをしている」でのプラス評価は91.2%（前年度82.6%）と8.6ポイント上昇している。学校が継続してあいさつ運動に取り組んでいる成果と評価する。また設問「先生に注意されたことは理解できる」のプラス評価は90.4%（前年度84.7%）と5.7ポイント上昇している。それ以外でも、児童と先生の間を問う設問「先生たちは、ていねいに指導してくれる」のプラス評価は92.0%（前年度88.8%）、「先生たちに相談できる」のプラス評価は82.4%（前年度70.7%）と、いずれの項目でも向上していることから、先生と児童との関係は良好に保たれているものと評価できる。

自己評価報告書において、課題の「言葉遣い」が多少改善してきているとの記述がある。今後も根気強くきめ細かな生活指導を継続していただきたい。「遅刻が多い」、「落とし物が多い」、「保護者のすぐるへの入力が遅い」等の指摘があるので、児童のみでなく保護者に対して協力と注意を促していただきたい。

＜改善結果・改善方策＞

継続的な取組を通して児童の挨拶の意識が高まり、登下校時はもとより校内においても気持ちのよい挨拶の声が聞かれています。学級単位で積極的に挨拶運動に取り組む様子も

見られます。挨拶は人と人をつなぐ言葉であると今後も継続して働きかけてまいります。設問「先生に注意されたことは理解できる」「先生たちは、ていねいに指導してくれる」「先生たちに相談できる」の肯定的な評価が高いことは、学校として、教員として大変うれしいことです。背景には、保護者の方、地域の方が学校の取組を理解し、日々、お子さんに肯定的な声掛けや働きかけをしてくださっている表れと考えます。今後も「地域とともに子どもを育てる」ことを土台に、保護者、地域、学校が一体となって児童を育てていきたいと存じます。児童の言葉遣いについて、YouTube等の動画視聴やSNS、ゲーム、テレビ等の影響が大きいと考えられます。悪気なく遣っている場合も多いことから、相手の気持ちを考えて言葉を遣うことや、指導するだけではなく違う言葉を提示するなどして改善を図ってまいります。遅刻や落とし物、すぐーるへの入力については、保護者会等の機会を通して保護者の方と連携し、支援してまいります。

【明正小学校関係者評価結果】

◎重点目標についての評価結果

③ 「たくましい子ども」として、「力を合わせて達成する子ども」を重視する。多様な他者のよさを理解し、協働して解決しようとする態度を身に付けさせるとともに、心身の健康づくりを進める。アンケートの児童向け設問「わたしは体育や休み時間にすすんで運動している」でのプラス評価は76.4%（前年度71.1%、前々年度68.7%）と上昇傾向にある。「学校生活は楽しい」のプラス評価は86.0%（前年度82.2%）、「学校が好き」のプラス評価は80.8%（前年度75.6%）とこれらもそれぞれ4から5ポイント向上している。これらより、今年度は児童が学校での活動により積極的に取り組んできたものと推察される。

明正小学校の児童の体力向上については、常にスペースの問題があるが、自己評価報告書の中でも、体育授業、遊び時間、たて割班活動の際の体育館、屋上、校庭のスペース調整の仕方について、さらには安全確保等についても詳細に検討されている。これらも踏まえて、次年度に向け引き続き体力向上に取り組んでいただきたい。

昨年度より、児童向け設問に「私は放課後、友だちと遊ぶ時間がある」をアンケート項目に加えているが、この設問に対する回答のプラス評価が58.8%（前年度52.5%）と6.3ポイント上昇している。プラス評価の上昇は良い方向性と思われるが、依然として半数近くの5,6年生が、放課後に友だちと遊ぶような時間的な余裕はない状況は変わっていない。学校で、友だちと体育の時間や休み時間に一緒に体を動かしたり、友だちと協働したチームプレーとして何かに取り組むといった活動が一層重要と思われる。

<改善結果・改善方策>

「すすんで運動している」と肯定的な回答している児童が増えているとともに、「学校生活は楽しい」「学校が好き」と回答している児童も増えており、児童が前向きに学校で生活できていることは大変うれしいことです。今後も継続できるよう取り組んでまいります。体力づくりでは、リズム縄跳びに取り組み、高学年児童が低学年児童に教えたり、寄り添ってともに楽しんだりする姿が見られました。休み時間にも、多くの児童が鬼ごっこやドッジボール等、体を動かしています。鬼ごっこ等とドッジボール等のボール遊びの場を分けたことで、大きな事故を防ぐことができましたが、多人数が在籍している明正小ですので、今後も安全の確保に努めてまいります。また、体育の授業での運動量の確保と児童が進んで運動に取り組もうとする意欲を高められるようOJT研修を通して指導力の向上を図ってまいります。

2 令和7年度に向けた改善方策

教育目標に基づき、「明るい子ども」として、学ぶ意欲を高め、自らすすんで学習課題

をもち、主体的に解決していこうとする能力や態度を育てます。「正しい子ども」として、思いやりや感謝の心をもって、すすんでよりよい人間関係を築く能力や態度を育てます。「たくましい子ども」として、力を合わせて達成する子どもを重視し、多様な他者のよさを理解し、協働して解決しようとする態度を身に付けさせるとともに、心身の健康づくりを進めます。

そのための方策として、「『キャリア・未来デザイン教育』の実現」に向けて、未来に向けて社会の担い手となり、持続可能な社会を発展させていくための主体性や協調性、創造力、課題設定・解決能力、表現力などを養います。振り返りを起点とし、問いを見いだし、解決方法を考え、協働して学び、さらに振り返りの学びへつなげる探究的な学びを推進し、学び続ける素地を養います。ウェルビーイングの向上を目指し、自己肯定感や自己実現等の獲得的要素と利他性や貢献意識等の協調的要素を一体的に養います。キャリア・パスポートを活用し、自ら目指す姿を設定させ、保護者や教師の価値付けにより自己のよさを自覚させ、短期・長期的な将来への希望や社会への参画意識を醸成します。

「教育D Xの推進」に向けて、タブレット端末は文房具の一つと捉え、一人一人に合った学びを提供するために効果的にI C Tを活用します。個別最適な学びでは基礎的・基本的な知識・技能の習得や学びのプロセスを可視化し調整力を養います。協働的な学びでは他者との関わり等を通して思考力・判断力・表現力等を育てる。多様な学び方を推進し、インクルーシブ教育の充実を図ります。またI C Tを積極的に活用し、教師の評価や支援の充実を目指します。

「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進」に向けて、全教育活動を通して、人権尊重の精神を理解させます。他者を思いやり、尊重し、違いを認め合いながら生きていくために。寛容な態度と柔軟性を醸成します。各教科等において人権課題を取り上げるとともに、ひまわり学級との交流を通して多様性を尊重する精神を育みます。特別活動を中心に自己肯定感や他者を慈しむ心情、貢献しようとする意識を育てます。インクルーシブ教育の考えに基づき、個別指導計画や教育支援計画等を活用し、個々の実態に応じた教育の充実を図ります。ふれあい月間アンケートやQ U調査等を活用し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応や不登校の未然防止・長期欠席児童への対応を充実します。関係諸機関と連携するとともに、全職員がチーム学校として組織的に一人一人の児童を支援します。

「地域社会と協働した教育の推進」に向けて、「魅力ある学校」を目指し、砦の学び舎の各校と連携します。成城三丁目緑地や近隣大学、商店会等の地域素材・地域人材を活用し、児童の主体的・対話的な活動を展開し、多様な学びを推進します。地域での活動を通して、人々の営みを共感的に理解させ、自分の働きかけからの変化や改善の成就感や地域への帰属意識をもたせるようにします。

「学校における働き方改革」の推進に向けて、「教育の質の向上」と「持続可能な学校」を実現するために働き方改革の推進を図ります。児童と向き合える時間と教員の心身の健康増進や豊かな私生活での創造的な時間を確保し教育の質の向上につなげます。教員同士のミドルアップ・ミドルダウンを充実するとともに、諸会議の精選や前例に捉われない教育活動、I C Tを効果的に活用した校務運営を進めます。